

第2章 関連文化財群・歴史文化保存活用区域の設定

1 伊豆の国市の歴史文化特性

伊豆の国市は、全国との関わりの強い歴史遺産を豊富に持つ地域である。その遺産が市域の中に幾重にも重なる形で残されており、現代における歴史文化資源となっている。国指定史跡に限っても、北江間横穴群・北条氏邸跡(円成寺跡)・願成就院跡・伝堀越御所跡・葦山役所跡・葦山反射炉と、古代から幕末・維新时期に及ぶ価値の高いものが集積しており、それらは日本の歴史の転換期に大きく関わっており、伊豆の国市民が全国に誇れるものである。そのほかにも、国宝・国指定重要文化財・天然記念物・登録有形文化財や、県指定の文化財も多く、市指定のものも含めて、指定文化財は57件に及ぶ。未指定のものも含めれば多種多様な文化財の宝庫といえる。

それら資源の蓄積状況や、それを取りまく環境条件等から、伊豆の国市の歴史文化の特性が次の3点に大きく整理できる。

① 様々な時代の歴史文化が重層的に蓄積

残されている歴史文化資源の築かれた時代は多岐にわたり、何度も日本を動かす歴史の舞台になってきた地域である。様々な時代の史実に基づく豊富な遺産が共通のエリアの中で重層的に蓄積することで、深みのある歴史文化が創出されている。日本の様々な時代の歴史遺産にふれることができる魅力を有しているといえよう。

② 時代の変革の端緒を開いた地域

平安時代から鎌倉時代への変革(源頼朝挙兵)、室町・戦国時代から天下統一への変動(堀越公方・後北条氏の拠点)、そして江戸期から明治維新(江川家・葦山反射炉)と、我が国の歴史の大きな変革期において、変革の端緒となった地域であり、それらの歴史遺産が混在している。日本史上の転換期、新しい時代のはじまりの具体的な姿にふれることができる。

③ 狩野川を軸とした自然に育まれた歴史

伊豆半島の要に位置し、代官所や葦山県庁が置かれた歴史を持っている。狩野川・下田街道は歴史を通じて伊豆の南北方向の中心軸であり、人や文物の交易を担ってきた。狩野川や周囲の山々などの自然は、富士山を間近にのぞむ景観を提供しつつ、時に脅威となりながらも恵みともなって歴史文化の舞台としての環境をなしてきた。また、古奈温泉は鎌倉時代に遡る歴史ある温泉であり、多くの先人が当地を訪れた。温泉文化という視点においても、当地域の恵まれた自然環境を語るすることができる。

2 関連文化財群の設定

(1) 関連文化財群設定の考え方

「関連文化財群」とは、有形・無形、指定・未指定に関わらず、様々な文化財を歴史的・地域的関連性に基づいて一定のまとまりとしてとらえるものである。これまで個別に認識されてきた文化財について、地域の歴史文化を物語る資産群としてとらえ、一体的に保存・活用していくことは、文化財の魅力を高めるとともに、魅力的な形でわかりやすく価値を伝えていく効果的な方策である。

伊豆の国市においては、各時代に特徴ある歴史文化遺産が形成され、一度ならず日本史上の変革のきっかけの舞台となってきたという歴史文化特性を踏まえ、日本史における転機と関連づけたテーマを設定する。

また、あらゆる時代を通じて歴史文化を生む環境となってきた自然や交通路等の地理条件に関する資源群もテーマに加えて扱う。

(2) 関連文化財群の設定

関連文化財群は、以下のような6つのテーマを設定する。テーマ設定にあたっては、第8図のように、日本史の転機と伊豆の国市の歴史との関連を重視した。

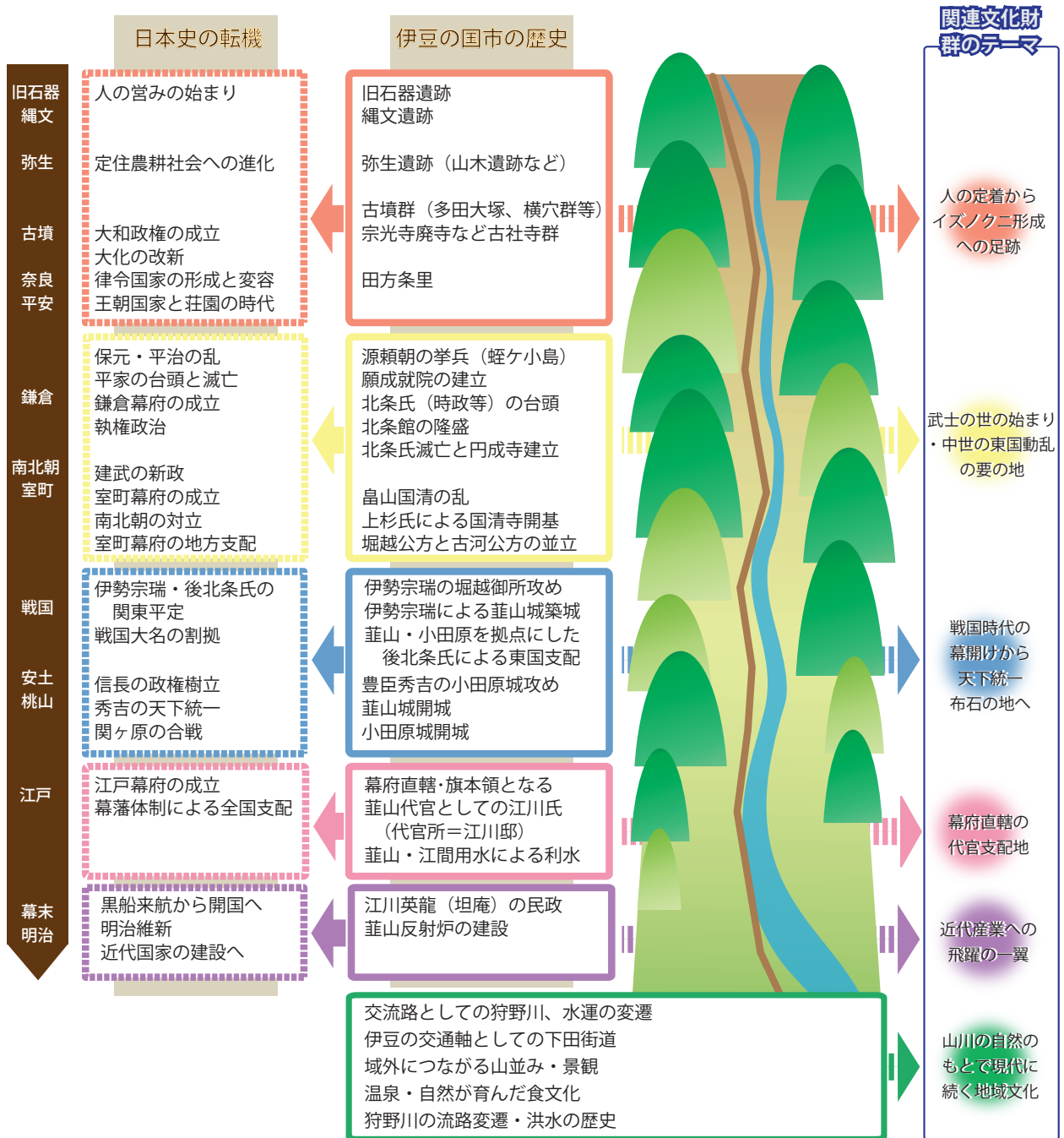
- ・時代別テーマ : とくに日本史上の複数の大きな転換期・変革期にその胎動部分^{たいたう}の舞台となってきたことを誇りとし、特に大きな変革をもたらした時代を中心に時代区分を捉え、以下の5テーマを設定する。

- ①人の定着からイズノクニ形成への足跡
- ②武士の世のはじまり・中世の東国動乱^{かなめ}の要の地
- ③戦国時代の幕開けから天下統一^{ふせき}布石の地へ
- ④幕府直轄の代官支配地
- ⑤近代産業への飛躍^{いちよく}の一翼

- ・時を超えるテーマ : 古代から現代へと、一部、形を変えつつも普遍的に存在してきた自然や交通路等の環境が、歴史事象の舞台となり、文化の土壌となってきたこと自体を、全時代を貫くテーマとして加える。

- ⑥山川の自然のもとで現代につづく地域文化

ストーリー・構成する歴史文化資源については、第8図・表5に示し、概要は第2章-5に記述した。なお、伊豆の国市の歴史概要は、資料編 資料1に詳述した。



第8図 関連文化財群のテーマ

表5 関連文化財群一覧表

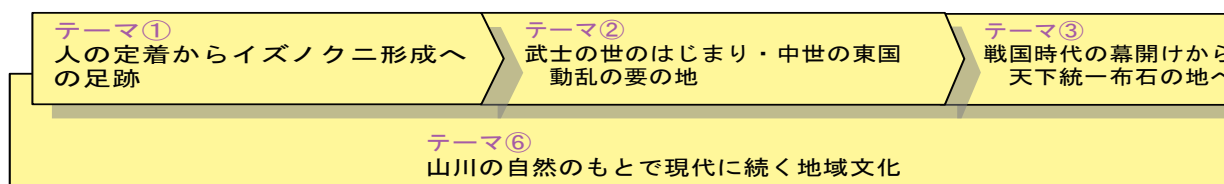
テーマ① 人の定着からイズノクニ形成への足跡	
時代	旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時代（原始・古代）
ストーリー	キーワード
旧石器・縄文時代から農耕社会への移行を経て、大和王権の地方社会としての先進性をもった「伊豆」が成立する。	旧石器から縄文時代の遺跡や遺物群 山木遺跡の農耕生活 古墳群や古寺社等が伝える伊豆国成立
構成する主な歴史文化資源	関連するひと・もの
北江間横穴群 山木遺跡出土の生産・生活用具 仲道A遺跡出土縄文草創期遺物一括 白石の石棺	縄文時代の村 弥生時代の水田 若舎人

テーマ② 武士の世のはじまり・中世の東国動乱の要の地	
時代	平安時代末期・鎌倉時代・南北朝時代・室町時代（中世）
ストーリー	キーワード
中世を通じて東国の中心のひとつとして存続した。武士の世の歴史ここにはじまる。	源頼朝挙兵と鎌倉幕府成立 鎌倉幕府執権北条氏の本拠地 畠山国清と関東管領上杉氏
構成する主な歴史文化資源	関連するひと・もの
北条氏邸跡（円成寺跡） 願成就院と運慶作諸仏 本立寺の梵鐘 国清寺の仏像	源頼朝 北条時政 政子 円成尼 畠山国清

テーマ③ 戦国時代の幕開けから天下統一布石の地へ	
時代	戦国時代・安土桃山時代（中世末期）
ストーリー	キーワード
戦国時代を通じて後北条氏の拠点となる。豊臣秀吉の天下統一の布石の地にもなった。	伊勢宗瑞の堀越御所攻め 後北条氏の東国支配 豊臣秀吉の小田原攻め
構成する主な歴史文化資源	関連するひと・もの
堀越御所跡 菰山城跡 豊臣軍の付城跡 香山寺	堀越公方足利政知 茶々丸 伊勢宗瑞 豊臣秀吉

古代

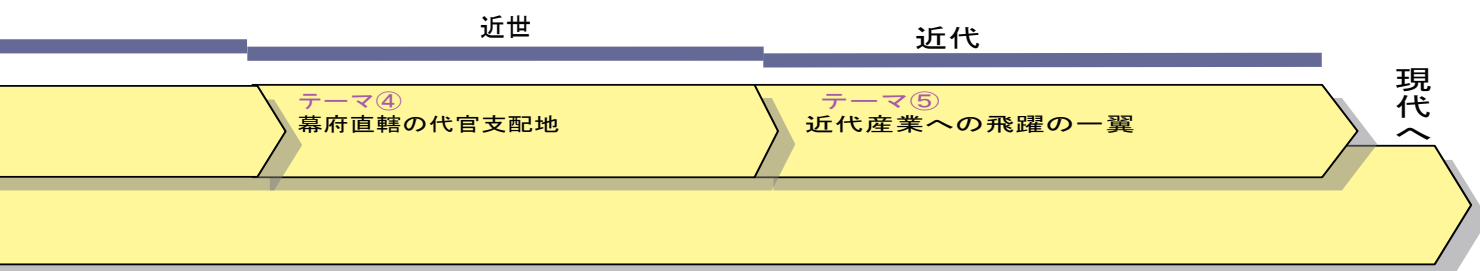
中世



テーマ④ 幕府直轄の代官支配地	
時代	江戸時代（近世）
ストーリー	キーワード
江戸の守りの要地として、葦山代官支配の中心地となる。	幕府代官による地域支配 葦山代官江川家
構成する主な歴史文化資源	関連するひと・もの
葦山役所跡 江川家住宅 葦山代官江川家関係資料 旧上野家住宅	内藤信成 江川英長

テーマ⑤ 近代産業への飛躍の一翼	
時代	幕末～明治維新（近代）
ストーリー	キーワード
幕末の動乱期、洋学研究の拠点として、近代産業胎動の舞台となる。	ペリー来航と開国 海防・洋学研究 近代化産業遺産
構成する主な歴史文化資源	関連するひと・もの
葦山反射炉 葦山役所跡 葦山代官江川家関係資料 江川家関係写真	江川英龍 江川英武 ジョン万次郎

テーマ⑥ 山川の自然のもとで現代に続く地域文化	
時代	時を超えて現代へ
ストーリー	キーワード
富士山・狩野川・温泉など自然の恵みに独自の地域文化が根つき、祭事等の伝承が継承されている。	狩野川の育む地域文化 下田街道がつなぐ人・物・文化 温泉文化
構成する主な歴史文化資源	関連するひと・もの
富士山画賛 かわかんじょう 下田街道道標 種蒔三番叟・式三番	富士山 道祖神 江間堰 祭事等直会における郷土料理



3 歴史文化保存活用区域の設定

(1) 歴史文化保存活用区域設定の考え方

「歴史文化保存活用区域」とは、不動産である文化財や有形の文化財だけでなく、無形の文化財も含めて、さまざまな文化財が特定地域に集中している場合に、文化財と一体となって価値を形成する周辺環境も含め、文化財（群）を核として文化的な空間を創出するための区域として定めるものである。

伊豆の国市内には、様々な時代にわたる多種多様な文化資源が分布しており、各地区の文化的特徴を形作るとともに、現在の姿を形成する基礎となってきた。集積している文化資源の種類や時代特性等は、地区によって各々異なる様相も見せている。

これら市内の文化財の保存・活用により歴史文化についての知見を浸透させ、地域の活性化につなげていくにあたって、多種多様な歴史文化資源の地理的な集積度を客観的に評価し、一定の集積を持つエリアを7区域の歴史文化保存活用区域として設定する。設定にあたっては、学術的研究や市の施策の蓄積の差異、保存・活用の進捗状況によって「重点区域」と「促進区域」に区分する。

また、全市的なまちづくりの方向性と整合をとる必要があり、都市計画マスタープランにおける地域区分に配慮する。

(2) 歴史文化保存活用区域の設定

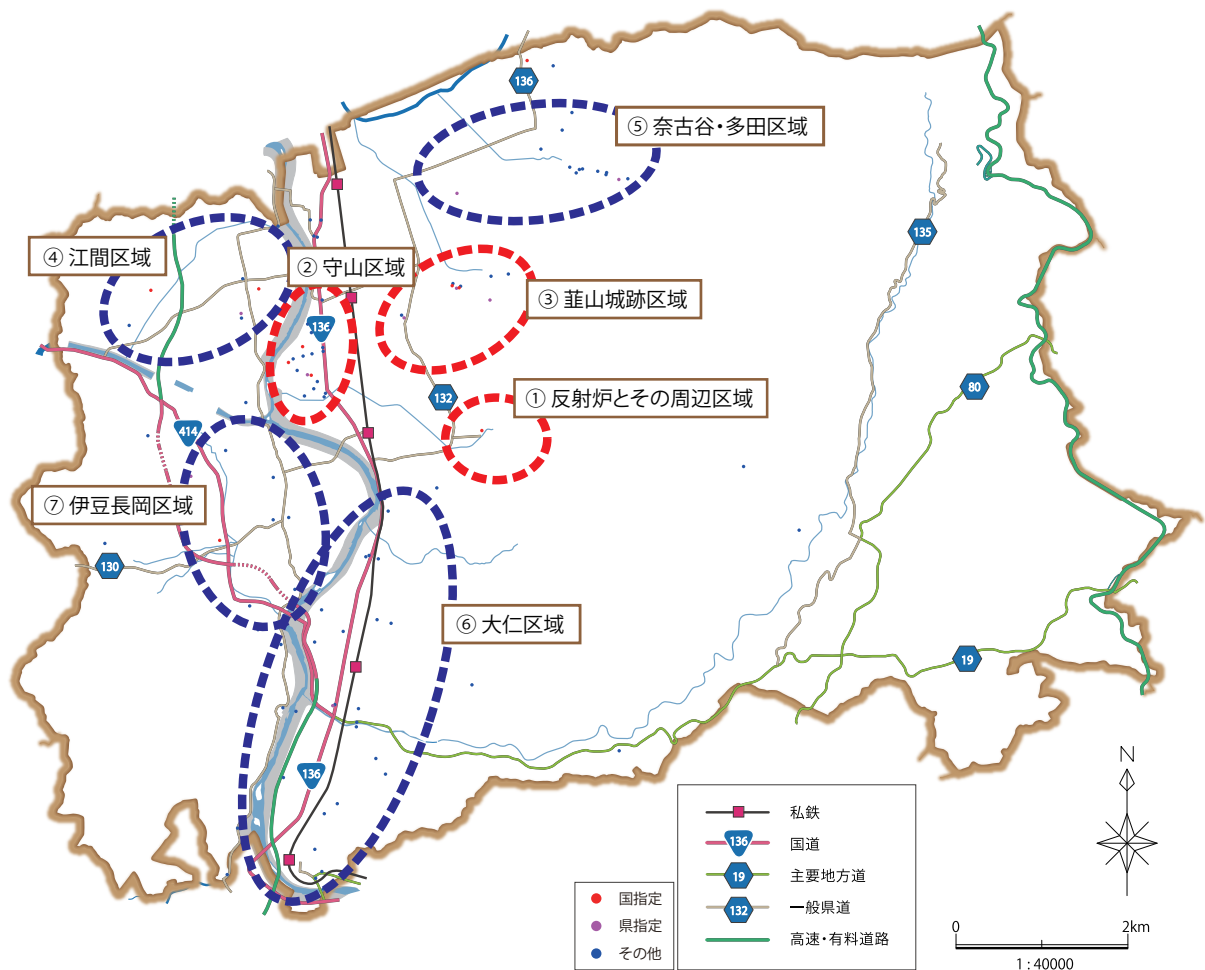
伊豆の国市における歴史文化保存活用区域は、7区域に区分した設定とする。さらに、7区域を以下の考え方により、「重点区域」3区域、「促進区域」4区域に区分し、それぞれの特性、現状に応じた保存・管理・活用への取り組みを進める。

「重点区域」 全国的にもよく知られた史跡・文化財が存在し、市民だけでなく、市外からの来訪者も多い。学術的研究や市の施策において一定の蓄積がなされている。今後はさらに調査・保全施策を講ずると共に、来訪者の利便性の向上を含めた活用施策を重点的に実施する区域。

「促進区域」 市民にとって身近な史跡・文化財があり、学術研究・調査を促進して歴史文化資源としての価値を解明する必要がある。今後、保存活用施策を立案・推進する区域。

表6 歴史文化保存活用区域の設定

区分	区域名	区域の範囲	区域の特性
重点区域	①反射炉とその周辺区域	韮山反射炉とそれを取り囲むエリア	幕末期の近代産業の先駆けである韮山反射炉は保存・管理・活用の重要性が特に高く、世界文化遺産登録を目指した準備活動を行っている。
	②守山区域	狩野川右岸の守山周辺と四日町等を含むエリア	頼朝挙兵に始まる中世の歴史変革の舞台である資源が凝縮して存在する区域で、国指定史跡・国宝が集積する。
	③韮山城跡区域	韮山城跡、付城、江川邸を中心に、山木地区や蛭ヶ島などを含むエリア	戦国時代に伊勢宗瑞が築城した韮山城跡と豊臣秀吉軍の付城、近世の代官江川家に関する史跡や重要文化財が集積する。
促進区域	④江間区域	北江間、南江間地区一帯	北江間横穴群があり、伊豆を代表する古代の墓域として注目される。
	⑤奈古谷・多田区域	奈古谷・多田地区一帯	国清寺をはじめ仏像・石造物が集積し、古代～中世の宗教空間が集中する。
	⑥大仁区域	大仁地域の平地及び山麓部分に、狩野川左岸の城山周辺地域を加えたエリア	旧石器・縄文時代の遺跡が多く分布している。また、狩野川の舟運の拠点として、人の営みの場である「まち」の歴史を今に留めている。
	⑦伊豆長岡区域	伊豆長岡温泉郷を中心に、江間堰なども含むエリア	歴史的な温泉地であり、温泉と歴史文化を融合する拠点として期待される。



第9図 歴史文化保存活用区域

(3) 歴史文化保存活用区域と伊豆の国市都市計画マスタープラン

伊豆の国市都市計画マスタープランでは、将来都市構造の構築を目指して、都市機能を誘導していく地区を「まちの拠点」と位置づけ、その中のひとつとして「歴史・文化保全活用拠点」を設定している。「歴史・文化保全活用拠点」の位置づけ・内容は以下の通りである。

- ◆ 韮山反射炉、韮山城跡、江川邸、守山、北条氏邸跡など、本市の歴史を代表する史跡・遺跡の集中する地域を、歴史・文化保全活用拠点に位置付けます。
- ◆ 歴史・文化保全活用拠点では、市の歴史的資源や伝統文化及び地域特有の歴史的景観を保全・活用し、次世代へと受け継いでいきます。

また、伊豆の国市都市計画マスタープランの地域別構想編では、地域区分として、以下の6地域を設定している。本構想の歴史文化保存活用区域と都市計画マスタープラン地域区分との対応は表7の通りである。

表7 歴史文化保存活用区域と都市計画マスタープランの地域区分との関係

歴史文化保存活用区域	都市計画マスタープランの地域区分	備考
① 反射炉とその周辺区域	韮山地域	
② 守山区域	韮山地域	
③ 韮山城跡区域	韮山地域	
④ 江間区域	江間地域	
⑤ 奈古谷・多田区域	韮山地域	
⑥ 大仁区域	大仁地域	
⑦ 伊豆長岡区域	長岡地域	
	東部山間地域	山間地のため含めない
	葛城山、城山周辺地域	城山周辺地域は⑥に含める。他は山間地のため含めない。













第10図 都市計画マスタープラン地域区分図

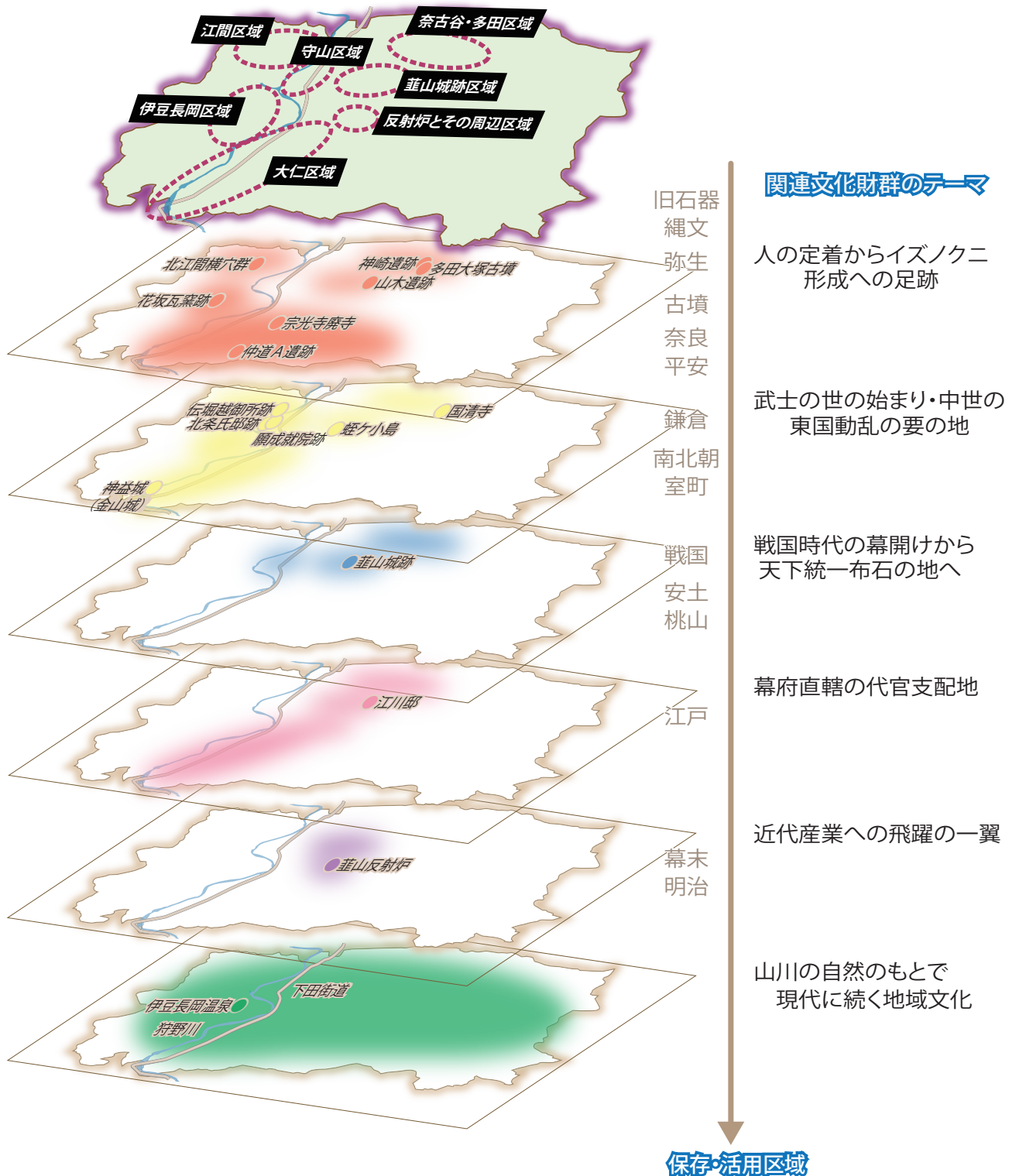
4 関連文化財群と歴史文化保存活用区域の関係

6つの関連文化財群は、7つの歴史文化保存活用区域と、縦糸と横糸の関係になる。

ひとつの関連文化財群は、そのテーマのもとで複数の歴史文化保存活用区域にまたがるものが多く、また、それぞれの歴史文化保存活用区域も複数の関連文化財群と関わるものが多い。

表8 関連文化財群と歴史文化保存活用区域の関係

	重点区域			促進地域			
	① 反射炉と その周辺 区域	② 守山区域	③ 葦山城跡 区域	④ 江間区域	⑤ 奈古谷・ 多田区域	⑥ 大仁区域	⑦ 伊豆長岡 区域
① 人の定着からイズノクニ 形成への足跡							
② 武士の世の始まり・中世の 東国動乱の要の地							
③ 戦国時代の幕開けから 天下統一布石の地へ							
④ 幕府直轄の代官支配地							
⑤ 近代産業への飛躍の一翼							
⑥ 山川の自然のもとで現代 に続く地域文化							



第 11 図 保存・活用区域及び関連文化財群のテーマ